（別紙4）　　平成　21　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170200345		
法人名	医療法人香徳会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	関市美和町3番地		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	平成22年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200345&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町３丁目７番地　尾関ビル
訪問調査日	平成21年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームあさひは町中にあり、利用者の方は昔馴染みの街を散歩しながら想い出してゆったりと暮らして見えます。入居してまだ日の浅い方も見えますが、すぐに慣れ楽しく生き生きと暮らして見える姿がとても印象的です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所開設から10年が経ち、ホームの役割りや認知症への理解が、地域の人々の中に拡がっている。定員6名の利用者を、ゆとりのある職員数を配置して、一人ひとりの個性を尊重した、その人らしさを大切にするケアを、職員が一丸となって支援している。利用者は、住み慣れた馴染みの環境の中で、経験豊かな介護者と系列医療機関との緊密な連携の下で、安心して、生き生きと楽しい日々を送っている。 また、運営母体と市の主催する認知症講座(5回開催済み)には、職員が講師の役割りを担い、認知症になっても地域の中で安心して暮らし続ける意義を、市民に向けて啓発している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「一人一人の個性を尊重し、地域の中でその人らしく日常生活が送れるようにケアを行います」を職員間で唱和しながら共有して実践しています。	地域の人々と関わりながら、利用者の思いや希望を受け止め、その人らしく日常生活が送れるように、管理者・職員は、毎日のミーティングや月例会議で確認し、共有しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの近隣にはいろいろな商店・神社などがあり、散歩に出た折には寄り道ができるように支援していただいております。	自治会の一員として広報の回覧があり、清掃活動などの町内行事には積極的に参加している。近隣の人々から野菜の差し入れがあったり、商店街の人とも顔なじみが多く、互いに挨拶を交わしている。	ホームの目前にある幼稚園との交流を数回行ったが、継続されていない。園の行事に気楽に出かけたり、ホームにも招くような関係づくりにも取り組まれたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けたり、認知症の講義に出かけたりして、理解を得るとともに支援の方法を知ってもらうようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、あさひの状況を知ってもらうため毎月の行事表を作成し、意見やアドバイスをもらうようにしています。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、運営状況を報告して、個別事例を話し合っている。事故事例の検討や、直近では、インフルエンザ対策・予防についての意見交換があり、運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には運営推進会議や折にふれ実情を伝えるようにしている。	市の高齢福祉課担当者が運営推進会議に出席し、ホームの実情を話し合っている。市から防災訓練や研修会等の情報を受け、市の介護相談員の派遣を、2ヶ月毎に受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束禁止の意義を把握しており、日ごろから身体拘束について話し合いをしている。	身体拘束マニュアルを備え、定期的に、全員参加の学習会で周知を図っている。玄関の鍵は、通常は解放しているものの、利用者の行動や心理状態を見極めて、やむ得ず施錠する場合がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を受け、各職員にも徹底している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度の研修を受け各職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族の不安や疑問点をよく聞き十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日ごろから要望を聞き対処している又、家族には訪問時や、電話などで状況を知らせ要望を聞いている。	利用者・家族の意見、要望等はカルテに記録し、その対処について家族に説明し、全職員に周知している。特に利用者は、自らの意思を伝えにくい場合が多いので、職員が思いを汲み取るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者はホームに訪問したり、病院での研修会などに出席した折に意見や提案を聞いている。	毎月定期会議があり、職員の意見・提案の機会を設けている。夜間対応の課題、問題事例の提起、勤務調整、外部研修対策等が話し合われ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については資格を加味している。又、各職員が向上心を持てるように研修に参加できるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取組に対しては能力向上の為に外部研修に行かせたり施設の中で講師を呼ぶなどし勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し交流している。またグループホームを訪問しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、家族や本人からの聞き取りを行いケアプランに取り入れるようにしている。また入居前の施設にも出向いたり電話などで情報をもらってサービスの向上につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には十分時間をかけて、今まで困ったことや、これからどう生活していってほしいかを聞き取り関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面談時他のサービスや支援を情報提供し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の立場にたった生活を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の訪問時、利用者の暮らしぶりを報告し本人との関係が良くなるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ある利用者は自分の住んでいた家が気になっている。そのため買い物帰りにいつもその家を見てこれるように支援している。	散歩の行き帰りには、馴染みの商店に立ち寄り、昔からの馴染みの店員と会話を交わしている。職員と馴染みのスーパーへ食材の買い物などに同行し、帰りには自宅を見て帰るようにしている利用者もある。また、美容院も馴染みの店を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間で関わりを持てるようし、席の工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も経過を訪ねたり本人の様子を見に行ったりして相談や支援をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時アセスメントをして本人の意向を把握している。又、日々の生活の中で本人の言葉やしぐさで真意を汲み取り支援している。	入居時のアセスメントの中で、一人ひとりの思いや希望を把握しているが、入居後に新たに気づいたことや、気持ちに変化が生じたものを、アセスメントに付け加えている。帰宅願望が消え、ホームの暮らしが楽しいと、思いが変わった事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントをしている。又それまでの施設へ出向き情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定や食事量等をチェックし現状を把握している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人・職員・家族とともに今何が必要かを見極め本人にとって一番大切なことや課題を見つけてプランを組んで実践している。	利用者・家族の意向や状況を細かに捉え、全職員の意見、アイディアを取り入れて介護計画を作成している。また、3ヶ月毎に定期の見直しと、状態の変化によって随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録簿に情報を書き入れ職員間でその日の情報を共有している。介護計画に沿った記入の仕方をしている。実践の状態がよく分かるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携を結び利用者の緊急時の受診や助言を受けている。それにより入院回避や職員の不安も少なくなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、足湯の施設に行ったりしている。定期的に外食をしているが、安全な場所を選んでいくように予めトイレの状態を確かめたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれの希望を大切にして希望のかかりつけ医を受診できるように支援している。	入居前からのかかりつけ医が2名と、母体協力病院のかかりつけ医が4名あり、必要に応じ家族と協力して受診を支援している。また、1ヶ月半毎に、利用者全員が、母体協力病院の定期健診を受け、系列の訪問看護ステーションとも24時間対応で連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日ごろの健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時情報提供をしている。又、病院を訪ね経過を聞いたり、少しでも早く退院できるように連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針を家族・本人と話し合い書面を交わしている。又状態が変わった時は本人・家族の気持ちを重視し、支援につなげている。	入居時に、重度化に向けて話し合い、書類を交わしているが、状態によっては、ホームでの看取りは可能な体制である。進行の過程で再度、関係者を交え家族の意思を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内、法人の勉強会で訓練をし、実践力をつけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や防災訓練を行っている。又、地域の方たちにも日ごろからお願いをしている。	行政の指導の下で、年1回の避難訓練を行い、さらに、夜間を想定した自主訓練も年1回実施している。近隣からの避難協力については、日頃より話し合いができていて、緊急時の連絡網・マニュアルも整えている。	ホーム周辺は住宅密集地であり、地域が定めた安全な避難場所を確認することが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で関わり方や、言葉使いなどお互いに気をつけている。記録簿は個人情報が漏れないように施設の中で取り決めをしている。	一人ひとりの生活歴や人柄を把握し、特に、言葉かけに配慮している。プライドの高い利用者がいることから、職員間で共有し、安心と満足が得られるように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を言えるような環境にしている言葉かけの際もじっくりと聴く姿勢をとっている。職員の決めごとを作らず、利用者に選択してもらうように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外出の意向を本人に確認しながら行っている。それぞれの人が思い思いにすごし易いように環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えはそれぞれ好みの洋服に着替えてもらっているが明らかに季節が合わない洋服を選んで見えるときは、それとなく部屋へ誘って着替えてもらっている。理・美容については本人の意向で近所の美容院への送迎の介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者に希望を聞きながら一緒に作ったりしている。又、畑で収穫したものを調理するのも楽しみになっている。配膳や後かたずけなどを一緒に行っている。	利用者の好みを聞き、食材の買出しから、調理の下準備や配膳を担ってもらい、同じメニューを、職員と一緒にゆっくり摂りながら楽しい会話をしている。後片付けも利用者の日常的な役割りとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や一人一人の状態を観察しながら、栄養補給をしたり、水分も一日を通じてとれるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに誘い入れ歯の手入れをしている。歯磨き行為を忘れてしまっている人には歯ブラシを渡し自分で磨けるように見守っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握してケアプランに取り入れ職員間で共有している。紙パンツの人も昼間は布パンツに履き替えて皮膚のトラブルを防いでいる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気ない誘導に努め、失敗やオムツの使用を減らしている。昼間は布パンツを使用することで、利用者からの満足と、家族からも同じ思いが伝えられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策には薬に依存しないで食物で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は好みに合った時間や湯温にして楽しんでもらっている。	週3回、昼の時間帯に、好みの湯温で、ゆっくり、楽しい入浴を支援している。入浴や清拭拒否の人もあり、苦慮しているが、家族の協力を得たり、本人の気持ちをほぐしながら対応している。	入浴拒否対策では、家族の協力が常に得られることは困難であり、成功事例の収集や様々なアイディアなどの活用を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や夜寝る時間も本人の意向をふまへ支援している。又、部屋の環境を考え四季を通じて快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については職員間で勉強会をして確認している。誤薬につながらないように確認を幾重にも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴を把握して楽しみ事や役割ができるように日々支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日はできるだけ散歩に行ったり、本人の行きたい場所へ行ったりしている。又、地域のイベントにも積極的に参加している。	近くの商店街から観音寺を廻り、休憩を入れて約30分のコースを日常的に散歩している。知り合いと挨拶を交わし、馴染みの風景を見ることを楽しんでいる。また、商店街の縁日、うどん定食の店、春の花見、秋の紅葉、郊外の足湯などへ、月次・年次計画を立てて出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いにより、本人が近所のお菓子屋や美容院などで自由に使えるお金を預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、日ごろの状況報告をする等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者の作品を飾ったり,花を生けたりしている。又、キッチンと居間は見渡せるようになっており、ベランダでは日向ぼっこをしたり、流しソーメンをしたりして楽しめるようにしている。	玄関・居間には、利用者の作品や生け花を飾り、生活感や季節感を出すよう工夫している。日当たりの良いベランダは、日光浴や談笑、イベントの場となり、少し隔てた幼稚園からは、子どもたちのにぎやかな声が伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が静かに過ごしたりできるように配慮している。又、気の合った人同士で並んで過ごせるようソファーも用意してあり、笑い声が常に聞こえている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のADLに合わせて家族とも相談し部屋を決めている。居室にはなじみのものを飾るなどして居心地の良い空間を作り出している。	居室には、収納家具、鏡台、家族やペットの写真、カレンダー、ぬいぐるみ、表彰状など、馴染みの物を揃え、家庭的な雰囲気を工夫している。持ち込みの少ない利用者には、ホーム側から自宅にあるような小物類を探して提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中にはいろいろ表示があり、本人が自立して生活できるように工夫している。（トイレ・食堂・風呂場・居室等）		